

小田切支所発地域力向上支援金事業実施報告書（自己評価）

令和2年12月21日

地区名	小田切地区
事業名	長沼水害復興支援専用農場復元事業
団体名及び 代表者名	(団体名) 特定非営利活動法人 小田切オアシス (代表者名) 理事長 酒井 昌之 (連絡先) 026-229-3264

■事業概要

小田切地区小野平の耕作放棄地（約3a）を借り受け、復元し、「長沼水害復興支援専用農場」を設置し、枝豆、野沢菜を栽培し、長沼地区住民自治協議会を通じて、住民に届ける。	【総事業費】 151,000円 【補助金額】 150,000円
--	--

【活動写真】

(別紙参照)	
--------	--

※資料等ある場合は添付する。

■事業効果（目的の達成度・地域への貢献度等について）

耕作放棄地には大きな石があり、耕作地としての作業に支障がありました。しかし、復元し、石を除去したことにより一段の耕作地となり、景観もよくなり地元民から喜ばれています。加えて高品質のため、長沼住自協から感謝され、小田切地区の存在をアピールすることができました。

※参加人数等、数値化して効果を表せるものがあれば数値化したものも加えて記載をお願いします。

■自己評価（該当欄に○）

	予定を上回る	予定どおり	概ね予定どおり	予定を下回る
事業の実施	○			
事業の効果	○			
特記事項 (評価理由等)	枝豆は軽トラック3台、野沢菜は1,300kgを贈呈しました。長沼住自協の西沢会長をはじめ役員の方が作業のたびに訪れ、交流が深まりました。			

■今後の取組予定

「支援専用農場」は好評のため、「小田切住自協」、「支所」、「交流センター」の協力を得ながら、枝豆と野沢菜の贈呈事業を進めていきます。
--

(2) 事業に係る実施報告書（自己評価）

令和元年10月襲った台風は、長野市にも甚大な被害をもたらしました。とりわけ、堤防が決壊した長沼地区は未曾有の災害となり今、復旧復興の真っ直中にあります。

NPO法人小田切オアシスでは、同じ長野市民として、復旧復興の力になりたいと、同年11月行われた「野沢菜採りツアー」において、無償で被災者の方に供与したいと企画致しましたが、同地区においては復旧のために「野沢菜漬け」を断念せざる得ない事態となりました。そこで、当オアシスでは小田切住民自治協議会、同支所、同交流センターに呼び掛け「長沼水害復興支援小田切プロジェクト」を立ち上げ支援していくこととしました。

支援の具体的内容は①長沼小学校児童のアマワラビ狩り招待②枝豆の贈呈（実施済み）③野沢菜の贈与の3点ですが、野沢菜の作付けに必要な「専用農場」の開設が喫緊の課題となりました。枝豆を作付けした第2菜園の南約50メートルにある耕作放棄地を復元して8月22日（土）野沢菜を播種しました。

長年放置された来た耕作放棄地が耕地に生まれ変わり、病害虫の発生源であった同地が解消されたことに、近隣の耕作者からも感謝され、また景観も農村の原風景をとり戻したことも評価されると考えています。

とくに、94歳になる地主さんからは、「境界にあった大きな石も取り除いていただきありがたい」と感謝されました。

年々増加する耕作放棄地の解消にも繋がり、長沼地区の復興支援の舞台となったことについて感謝いたします。

なお、長沼地区住民自治協議会の西沢会長を始め、役員の方が野沢菜の播種、間引き作業も行うなど、一緒に汗を流すことは、相互理解に繋がり、友好の輪が広がり長沼地区の住民から感謝されています。



着工前



完了



開墾状況



開墾状況



草積込完了



草処分状況



開墾状況(右)



積込状況



積込完了



石処分状況



開墾完了



耕運状況

支所発地域力向上支援金 事業評価 (小田切支所)

事業区分

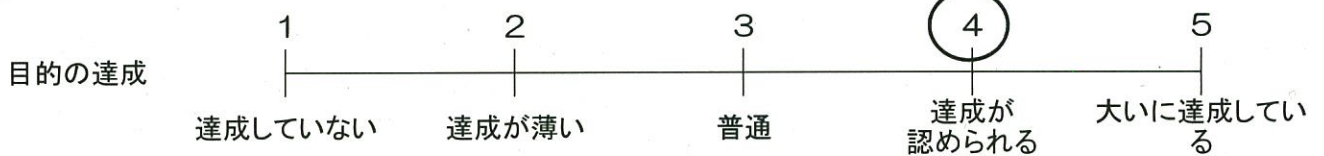
その他活動

評価項目

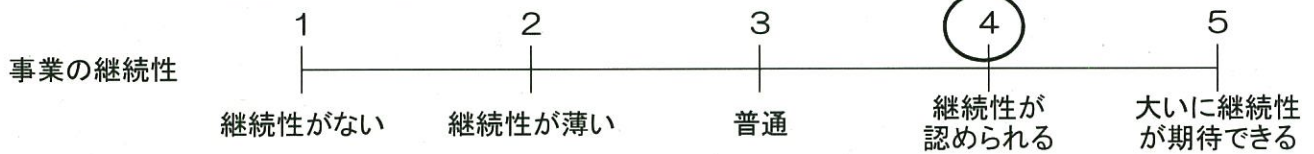
① 不特定多数者の利益また地域の利益につながる活動である



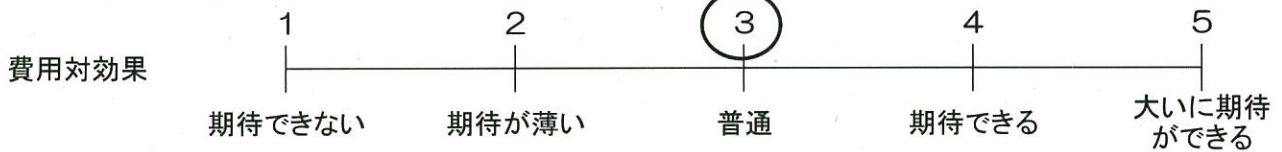
② 予定通り目的を達成している



③ 活動効果の継続性をどの程度期待できる



④ 費用に対して効果が期待できる



支所長の総合評価

本事業は、昨年10月に発生した台風19号により被災した長沼地区を農業で支援するために立ち上げた「長沼地区水害復興支援小田切プロジェクト」のメンバーである「NPO法人小田切オアシス」が長年放置されてきた耕作放棄地を復元し、長沼地区の水害復興支援のために「専用農場」として整備した。

この「専用農場」の整備は、年々増加する耕作放棄地の解消に加え、今年度は長沼地区の皆さんと、野沢菜の播種や間引き作業を一緒に行うことにより、新たな出会いもありました。

これからも、農業を通して長沼地区との交流が継続して行われることを期待している。